



# さとやま

## 2月に見られるいきもの



マンサク (赤花)

今年の1月は、何度も大きな寒波が襲来し、雪が積もることもあり寒い冬になりました。

2月に入り立春を過ぎると、冬至に比べ日照時間が1時間以上も増え、太陽高度も上がるため日光自体も強まります。これを「光の春」と呼び、これに反応して生き物たちも、冬眠から目覚めたり芽吹いたりします。

前回ご紹介した花芽たちの中には花をつけるものもあります。中央広場では、上の写真のように、まず咲くことから名がついたマンサクの花が満開になります。小川を隔てた私有地では、本来の色である黄色の花も見られます。ハンノキ広場では、カワラハンノキのほかにも、背の高いハンノキも、梢の雄花が花粉を出すようになります。

センター裏では、フキの花芽である「ふきのとう」が顔を出します。また、日当たりのよい草地では、オオイヌノフグリや、ホトケノザが一面に咲いているのに出会うことがあります。

また、暖かい雨が降ると、まずアカガエルが、少し遅れてヒキガエルが産卵します。卵塊は、アカガエルは塊状、ヒキガエルはひも状で見分けられます。カエルたちは産卵後、もう一度冬眠に入ります。

こんな春の兆しを探して、里を散策してみましよう



マンサク (黄花)



カワラハンノキ



ハンノキ



ふきのとう



オオイヌノフグリ



ホトケノザ



アカガエルの卵塊



ヒキガエルの卵塊

# 里の生き物紹介

## ヤブツバキ

センターゾーンや中央広場で、早春に咲くヤブツバキツバキ、この花は、ポトリと首が落ちるように花ごと散るので、武家では不吉と嫌われることもありました。

ヤブツバキは、ツバキ科に分類される常緑樹です。葉が厚く照りのある照葉樹で、厚みがあるので「厚葉木（あつばき）」とか、つやがあるので「艶葉木（つやばき）」から名がつき、春に咲くため、「椿」という漢字があてられたと言われています。

花がよく似たサザンカは、花弁がバラバラに散ることで見分けられます。



花弁は5枚で、雄しべは多数あり、中央に雌しべが1本あります。

落ちた花を裏返すと、真ん中に大きな穴が開いています。花が付いていたところをみると、がくと、雌しべと、将来果実となる子房が残っているのが分かります。花ごと落ちたわけではないのです。



切り開いてみると、雄しべと花弁がしっかりとくっついているのが分かります。この植物は、虫の少ない冬～早春に咲くので、花の蜜が大好きなメジロやヒヨドリなどの鳥に花粉を運んでもらう「鳥媒花」です。そのために鳥がとまっても簡単に壊れないよう丈夫なつくりになったようです。また、花色は木の実と同じく鳥が認識しやすい赤色で、嗅覚が弱い鳥に合わせて香りはありません。また蜜の量も虫媒花に比べ多量ですが、味は薄いようです。



初夏



花が落ちた後、子房は少しずつ成長し、初夏には大きな果実になります。秋には熟して3つに割れ、中から大きな3~6個の種子が出てきます。

種子の中には油が含まれていて、昔はこれを灯油や食用に利用していました。整髪料にもなり、今でも力士などの鬢付（びんつ）け油として利用されています。



秋



3月頃



一方、秋ごろには次の花芽が枝先にでき、気温の高いときには11月頃から花が咲きます。その後厳冬期を除き、3月頃まで咲き続けます。

常緑で、花の少ない時期に大きな鮮やかな色の花を咲かせるこの植物は、江戸時代から特に茶花として栽培され、西洋でも17世紀末ごろ大流行し、様々な園芸品種が作られました。

色は赤から白まであり、八重咲のものも多くあります。



## 1月の行事紹介



環境カウンセラーの山口信夫さんを講師に迎え、1月16日（日）講座「お花炭を焼いてみよう」を開催しました。

当日は晴れてとても暖かく、講師から本日の工程を聞いた後に、里山へお花炭の材料となる木の実などを拾いに向かいました。

お花炭とは「飾り炭」とも呼ばれ、植物など素材をそのままの形で炭化させて作る炭の一種です。現にとっても脆くて壊れやすいため、お花炭に適した植物が不安でした。焼き方は均等に焼けるよう位置を変えながら調整し、蓋を開けて見るまではとても心配でした。

最後に自分で作った竹の器に飾り、思ったより上手く焼けて、オシャレなお花炭アートが完成し、また自分でもチャレンジしたいと思いました。

## 2月の行事予定

19日（土）	竹炭焼きⅠ（竹きり・竹割り・窯入れ）	30名	AM9:00～11:00	神本 晃 & 河野俊治
20日（日）	竹炭焼きⅡ（火入れ）	30名	AM9:00～11:00	
27日（日）	竹炭焼きⅢ（窯出し）	30名	AM9:00～11:00	

※ 上記講座は3回の講座のため、2回以上出席の方に限り、最終日に「竹炭」をプレゼントします。

◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。

また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。

◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学报い」とし、傷害保険の加入はありません。

◆天候や少数（6名以下/1講座）、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更」する場合があります。

◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。

◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください

### 西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課